

若木仇名草（わかきのあだなぐさ） 下 縁切り

へこるばかりなる思いをば、涙の水も消しかねて、なお燃え上がる胸の火を、押し鎮め
押し鎮め

此糸「申し、お宮さん、なるほど、思い切りやんしょう」

お宮「エエ、何と言わんす、そんなら蘭蝶が事、思い切ってやろうとかいの」

此糸「アイ、だんだんのお話を聞いて、なんぼはかない私でも、これが思い切らずにい
らりようかいなア、何々の誓文で、重ねてふつつりよびやすまい、これまでのお腹
立ち、堪忍してくださいませや」

お宮「何のマア、切れるに詫び言があるものかいなア、よう思い切ってくださいました、
最早客にこそせまいけれ、兄弟分にして末々までの談合相手、これからはほんの頼
母しづく、必ずまめでいてくださんせや、また近いうちに来て、ゆるゆるとたと
礼を言いやんしょう、アア、どうやらそろそろに悲しゅうなってきた、胸騒ぎがする
ような」と

へ物が知らずか血のゆかり、梯子下りるもたよたと、力なくなく立ち帰る

へ隠れ聞いたる蘭蝶は

蘭蝶「コレ、此糸」

此糸「ヤア蘭蝶さんか 定めし聞いていさんしたろう、モウお前には逢われぬ、逢われ
ぬわいのう」

へこれが今生のお顔の見納め、よう見せてくださんせ と すがり嘆けば へ蘭蝶は
蘭蝶「オオ、残らず聞いて泣いていた、そんならそなたは、いよいよ切れる気か」

此糸「アイ、切れねばならぬ義理づく」

蘭蝶「イヤイヤ、切れる気ではあるまい、死ぬる気であらうがナア」

此糸「これが死なずにいらりようかいナア」

へお宮さんへの義理立ててこの世で添われぬその代わり、お前は後へながらえてお宮
さんと仲良うして、百万年のお命過ぎて後、未来は必ず

此糸「私と女夫、蓮座を分けて待っているぞえ」

蘭蝶「イヤイヤ、それでは宮への義理ばかりで、一緒に死のうと言ひ交した、俺への義
理は何で立つるぞ、此糸、そりゃ聞こえぬ、聞こえぬわいのう」

へそなたを殺して俺ひとり、世にながらえて人中へ、なんと顔が向けらりよう

へとてもながらえ果てぬ身を一緒にやいのとすがりつき、抱きしめたる心と心、二人が

命短夜の、鶏も告ぐるや鐘の音も、明日の浮名や響くらん